

令和２年度 大垣市教育振興基本方針評価委員会 第2回会議録

- 1 と き 令和2年7月28日（火）10:00～11:30
- 2 と ころ 大垣市役所8階 大会議室
- 3 出席者 長谷川哲也委員長、田村弘司副委員長、細江 敦委員、佐野 篤委員、
 三代広子委員、川合麻美委員、井上 瞳委員、土川達也委員
- 4 事務局 山本教育長、寺嶋事務局長、山下庶務課長、渡邊学校教育課長、
 神谷教育総合研究所長、堀社会教育スポーツ課長、中井文化振興課長、
 中山南部北部上石津学校給食センター所長、加代図書館長、
 中川まちづくり推進課長、杉田市民活動推進課長、
 吉田子育て総合支援センター所長
 吉安庶務課主幹、天野庶務課主査
 （欠席 浅井子育て支援課長）
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題
 - (1) 令和元年度大垣市教育振興基本方針の施策の実施状況について
 - ① 第2次読書活動推進計画
 - ② 第2次スポーツ推進計画
 - ③ 第2次文化振興計画
 - (2) その他

7 会議録

(1) 令和元年度大垣市教育振興基本方針の施策の実施状況について

① 第2次読書活動推進計画

資料No.2に基づき、加代図書館長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	図書館に新刊の本が出るタイミングはいつぐらいですか。
加代 図書館長	具体的な期間は把握しておりませんが、図書館の本は、大垣書店組合を通じて購入させて頂いておりますので、それほど大きなタイムラグはないと思っております。
委員	ほぼ同時と考えてよろしいですか。
加代 図書館長	はい。ほぼ同じ時期に図書館から新刊案内を出させて頂いております。
委員	図書館を利用されている方にお話を聞いた時に、その方は、よく図書館を利用される方なんですけど、4か所の図書館を回っているとのことでした。大垣市民でありながら、岐阜、安八、垂井そして大垣の図書館に行くそうです。そこで私は、どうして大垣の図書館だけじゃないのか尋ねてみたのですが、その方が言うには、絵本や紙芝居が大垣図書館には少ないとのことでした。各図書館の面積に対する本の割合は分かりませんが、大垣はそれほど多くないとのことでした。 ただ、その方がすごく褒めていらしたのが、4館の中で、大垣図書館の職員の対応が一番良いとのことでしたのでお伝えしておきます。
加代 図書館長	ありがとうございます。 大垣市では、児童閲覧室を設けておりまして、その部屋一杯に児童用図書を置いております。令和元年度末時点で、児童用図書は124,538冊ございますので、他の図書館と児童用図書に関する比較をしたことはございませんが、それほど少ないとは考えておりません。
委員	40ページの指標2「図書館を利用する市民の割合」ですが、平成26年度から平成29年度は、毎年割合が高くなっています。一方で、平成30年度から令和元年度にかけては、平成30年度に割合が下がって、令和元年度は、そのまま横ばいになっていますが、これは何か要因がありますか。
加代 図書館長	こちらの実績につきましては、資料No.3「大垣市の教育に関する市民アンケート集計結果報告書」のアンケート結果に基づいております。詳

発言者	発言概要
	しい要因につきましては分かっておりません。
委員	おそらく図書館の空調工事の関係と、今回のコロナの関係で割合が下がっているのではないかと理解しています。指標2の自己評価はD判定ですが、下のコメントに、アンケートの回答結果としては、実績数値が下がっているが、利用者数・貸出冊数はともに増加している旨の記載があります。この制約された中で、利用者数が増加していることは逆にすごいなと思います。
加代 図書館長	平成30年度につきましては、空調設備改修工事で、3か月間図書館を休館し、別の場所で貸し出しを行なっておりましたので、利用者数、貸出冊数が減りました。令和元年度については、3月だけコロナの影響により休館としておりましたので、そういった事情により、利用者数、貸出冊数は、前年度よりも増加しているものと推測しております。
委員	私も休館の影響だと思っていましたが、それならば、当然利用する人数は減るので、指標の目標値の補正はされないのですか。
委員	市民アンケートの調査期間を見ると、4月6日から4月22日で、まさにコロナ直下に実施されています。委員が言われたように補正をすべきですが、市民アンケートの32ページの質問を見る限り、いつ利用しているか限定していない聞き方ですので、この指標を補正するのは技術的に難しいのではないかと思います。
加代 図書館長	実績が市民アンケート調査の結果に基づいておりまして、目標値の補正に関しましては、補正の仕方が難しいということで、今回このような形で評価させて頂いております。
委員	インターネットの普及に伴い、情報が溢れ、必要な情報がすぐ手に入る社会の中で、図書館が人とつながり、地域とつながりながら、その存在を示していくというのは非常に難しいと思います。 図書館を利用する市民の割合は、今後は減少傾向にあると思うのですが、事業全体を見ていくと、本当によく様々な工夫の中で、市民への啓発とか情報提供とか、それから蔵書の更新率とか、努力されていると思います。 しかし、図書館を利用する市民の割合が低下している状況を放置してはいけないと思うので、更なる図書館事業の充実を考えていかなければいけないと思います。先ほどの児童用図書に関して言えば、例えば、子育てをしている人たちの居場所としての図書館であるとか、どこか

発言者	発言概要
	の世代をターゲットにするのもおかしいのかもしれませんが、何か考えていく必要があると思います。 図書館に行くと一冊の重みというものを感じます。インターネットで簡単に情報は取れますが、実際に図書館で本を読み、利用すれば、その一冊の重みを十分感じるわけです。そういった原点に立ち返りながら、新しい視点も加え、是非とも図書館を利用する市民の目線で、考えていただけるといいと思いました。
委員	従来ですと、図書館では、本を借りるというのがメインですけども、今はそれだけではない機能を持つべきではないかと感じます。 情報の発信地ということで、図書館で本を借りるとか、自習しに来るということだけではなくて、例えば、あらゆる分野の研修や講座をどんどん開催して、図書館へ行けば様々なことが学べるようにすれば、多くの市民に来ていただけるのではないかと思います。 市民アンケートの33ページの問いは、図書館を利用しない理由を聞いていますが、もっと選択肢を増やして、市民のニーズを吸い上げるような形にしないといけないと思います。そして、ニーズに合わせた催し物を行うことが出来れば、もっと良くなるのではないかと思います。 大学と連携して講座を実施するとか、他の図書館も様々な工夫を試みえますので、そのあたりも参考にしながら取り組まれば、もっと良いものになるのではないかと思います。
委員	二人の委員からご意見を頂きましたが、確か、次の振興計画では、読書活動推進ではなくて、図書館活用という名称に変わっていたと思いますので、次の計画のもとでは、読書に限らず、図書館というソフトとハードを含めて、どう活用するか期待したいと思います。 先ほどの40ページの評価の件ですが、指標2の目標値に関しては、補正は難しいと思います。ただ、この指標2のD評価をもって、総合評価Cとなっていることに関しては違和感を覚えます。この指標2の数値自体補正できないとしても、コロナの影響を受けていることは確かだと思いますので、D判定となっていますけれども、総合評価に関しては、委員の皆さまはどのようなお考えか、ご意見等があれば伺いたいです。 例えば、40ページの下のコメントに、利用者数、貸出冊数はともに増加しているとありますが、これをもう少し数値を明示していただければ、総合評価Cを改善できるかなと思います。具体的に数値を示して

発言者	発言概要
	いただけるのなら、その数値をもとに少し議論したいと思いますが、いかがでしょうか。
加代 図書館長	年間の利用者数でございますが、3館合わせまして、平成30年度は159,982人、令和元年度は175,812人となっております。また、年間貸出冊数は、平成30年度は636,749冊、令和元年度は706,673冊となっております。
委員	平成30年度から令和元年度にかけて、利用者数でいうと1万5,000人ぐらいい増加していることになります。また、貸出冊数で言うと、7万冊ぐらいいです。1万5,000人利用者が増えて、7万冊貸出冊数が増えているので、同じD評価でも、平成30年度と令和元年度では、意味は全然違うと感じました。こういう数字を評価報告書に書き込んで頂いた上で、総合評価の修正もあり得るかと思いますが、委員の皆さま、何かご意見ありますでしょうか。
委員	私は委員長の提案に賛成です。数値だけ見ると、図書館が仕事をしていないように見えてしまうので、もう少しきちんと数値を出して、総合評価をしても良いのではないかと思います。
委員	それではこの40ページに関しては、平成30年度からの利用者数、貸出冊数の変化や、平成30年度との違いなどの理由も含めて記載していただいて、総合評価CをBにさせていただくということでいかがでしょうか。
加代 図書館長	ありがとうございます。ではそのように修正させていただきます。
委員	44ページでお伺いしたいことがあるのですが、「文教のまち大垣」の継承ということで、3つ目に郷土学習の機会提供という項目があります。古文書講座や歴史講座などを開催されているとのことですが、これはどのくらいの参加者がいて、どのように周知されているのか教えてください。
加代 図書館長	ふるさと古文書講座ですが、10回の開催を予定しておりましたが、コロナの影響で、実際は8回となりました。実績の人数といたしましては、8回の講座で累計591人の方に参加していただきました。また、ふるさと歴史講座につきましては、開催回数が6回、実績人数は累計326人、郷土資料講座につきましては、開催回数が4回、実績人数は累計166人ということで、3講座合わせまして、計1,083人の参加となって

発言者	発言概要
	おります。
委員	市民アンケートの32ページで、図書館を利用する市民の割合に関して、60代や70代の利用者の方が、30代や40代の利用者より低いということがすごく意外でしたが、市民講座に参加される方は、60代や70代の年配の方が多いのですか。
加代 図書館長	60代以上の方が多いです。
委員	幼い子どものいる方を対象にした、ブックスタートパックから始まって、絵本などの貸し出しは成功していると思いますが、逆に、60代や70代の本の利用が少ないということと、市民講座を連携させて、もう少し年配の方を惹きつけるようなことが何かできないかなと思います。
加代 図書館長	足腰が悪くて、なかなか図書館に来ていただけない方に対して、配本サービスを実施しております。お近くの地区センター等で、予約した本を受け取ることができるサービスを行っております。年配の方に図書館に来ていただくということに関しては、今後検討して参りたいと思います。
委員	図書館を利用される方が、減っている状況をみると、図書館というのは、本を借りるとか、読むという場だけではなくて、別の形のサービスや、活動をしていくべきなのかなと思いました。お話を聞くと、色々なサービスや活動をされていますが、ただ、市民の方々が情報を知らないというところに、利用者が減少している要因としてあるのではないかと思います。図書館が実施しているサービスや活動を、SNSであったりとか、様々なメディアを活用して、もっと情報発信して頂けると良いと思います。
加代 図書館長	各種講座については、ホームページや広報おおがきを使いまして、市民の皆さまに周知をさせて頂いております。また、新刊案内のパンフレットを各地区センター等にお配りしております。今後も周知方法については、検討して参りたいと思います。
委員	図書館のサービスが多様化しているというのは、大垣市に限らず、他の図書館でも同じだと思います。一方で、先ほど議論したように、貸出冊数に関しては増加しています。これがどういうことを意味するかと言いますと、図書館は、本や読書に関して社会的インフラだという

発言者	発言概要
	ことです。市民アンケートを見ると、確かに今は、ネットで簡単に本や情報が手に入ります。図書館にわざわざ本を借りに行かなくても、自分で買えるという人はそれでいいと思います。問題は、それでもなお、貸出冊数が増えていることは、リピーターの方たちが一定数いるということです。つまり、本が買えない人たちや、あるいは図書館を愛好している人たちが一定数いて、その方たちが図書館の本を借りているのだと思います。その一方で、図書館離れをして、図書館に来ないという人たちも増えている可能性はあると思います。 これからは、蔵書の数や貸出冊数を増やしていくという努力をしながら、他方で、多様化にも対応していく、おそらく今後の図書館というのは、この両輪が求められるのだと思いますので、そのあたりを図書館の使命として強化していただきたいと思います。

総合評価について採決。

- ①サービス拠点の整備・充実に関する総合評価をC評価からB評価に修正して可決。その他については、異議なしのため原案のまま可決。

② 第2次スポーツ推進計画

資料No.2に基づき、堀社会教育スポーツ課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	57ページの指標2「体育施設の利用（設備・環境）の満足度」が毎年段々と減少していて、自己評価も低くなっていますが、理由を分析して何か対策されてきたのでしょうか。
堀 社会教育 スポーツ課長	この満足度に関しましては、指定管理者の体育連盟の方でアンケートを実施して頂いておりまして、各スポーツ施設でアンケートを実施しております。 指標2の満足度に関しては、5段階評価のアンケートのうち、大変満足と満足の割合の合計で示しておりますが、アンケート結果を見ますと、普通という割合が一番多くなっております。この指標2の満足度について、仮に普通の割合まで含めると、満足度は88.4%となっております。令和元年度には、総合体育館の第一体育館の床の改修工事を行いましたし、令和2年度には、西公園の庭球場や、総合体育館の庭球場の人工芝を張り替える予定でございます。新たな体育館や運動場を作ることには出来ませんので、このような結果になっているのではないかなと思っております。
委員	51ページの指標2「スポーツ活動（施設利用機会）の満足度」というのも体育連盟が取っているデータということによろしいですか。
堀 社会教育 スポーツ課長	その通りでございます。ちなみに、こちらの指標の満足度につきましても、満足度が普通以上の方々の割合を合計しますと、97%になっております。
委員	53ページに指標2「スポーツ大会での市内選手の活躍（県・全国・世界）に関する満足度」がありますが、この満足度というのは、何をもって満足しているのかという基準が非常に分かりにくいのですが、市民アンケートの41ページに質問がありますが、満足度の基準をどのように理解すればいいですか。こういう指標は毎年比較できるのでしょうか。
堀 社会教育 スポーツ課長	優秀な成績を収められた方につきましては、市長表敬しておりまして、新聞等で取り上げて頂いております。そのような新聞等の記事をご覧になられた方々が、満足しているということで、評価して頂けているのではないかなと思っております。
委員	市民アンケートを取るときに、この選手はこういう実績でしたと、具

発言者	発言概要
	体的な情報があつて、それでどう思いますかと問うなら、ある程度答えられると思います。質問が漠然としているので、例えば、仮に金メダルを取るような選手が出たら、他に優秀な成績を収めた選手がいなかったとしても、満足度は上がってしまう気がしますので、指標として非常に難しいものだと思います。したがって、その難しい指標の評価をもって自己評価するのは、正しい評価ができているのかなと疑問に思います。
堀 社会教育 スポーツ課長	市民アンケートは5年前から同じ質問で実施しておりまして、来年からは新しい振興計画の評価になりますので、市民アンケートにつきましても、改めて考えていきたいと思っております。
委員	私も市民アンケートの取り方全体に関わる事ですけども、41ページの問いも、34ページの問いも両方満足度を聞いていますが、非常に気になるのが、分からないという回答が多いということ。そして評価にあたって、この分からない人の人数を母数から引いて計算しているということです。これはアンケートの取り方とともに、評価の方法を今後検討していかなければならないと思います。例えば41ページの問いに対する「分からない」というのは2つの要素があつて、1つは、大垣市のスポーツ選手の結果は分かっているけれども、その結果だけでは、活躍しているかどうかは分からないという人が、分からないと回答している場合と、もう1つは、情報がなくて、全く選手のことを知らないという意味で分からないと回答している場合があると思います。これはやはり大きな違いだと思います。この分からないに対して、広報に力を入れていく必要があるのか、それともスポーツの振興に力を入れていく必要があるのか、2つの対応があるので、この分からないという回答は評価の技術的な課題として、今後継続して検討していく必要があると思いました。
委員	中学校の部活動ですけども、コロナや働き方改革のことがある中で、市としての方向性はどうなっているのでしょうか。
渡邊 学校教 育課長	コロナに関しましては、児童生徒の安全確保を第一として、部活動を実施しております。実施にあたっては、接触を避け、換気をし、消毒等を行いながら当面は進めていくことにしております。 部活動の方向性に関しましては、大垣市として部活動ガイドラインを作成しております。例えば、児童生徒の健康と職員の働き方を考慮し、

発言者	発言概要
	週1回の休養日を設けたり、土曜日、日曜日の部活動はどちらか1回としております。しかし、部活動に加入していない子どもも増えておりますので、そのような中で、子どもたちの興味、適性に応じた部活動のあり方はどうあるべきなのか、さらには、生徒数自体も減少しておりますので、部活動の数をどうしていくのか、といった様々な課題を引き続き協議し、部活動のあり方を検討しているところでございます。ただし、これらに関しましては、当面の課題に対する対応ですので、今後の部活動に関する大きな方向性につきましては、市の検討委員会で検討して参りたいと考えております。
委員	50ページに地域スポーツクラブの拡充という項目がありますが、地域スポーツクラブというのは、ミナモとかのことですか。具体的に教えていただけますか。
堀 社会教育 スポーツ課長	地域スポーツクラブというのは、校区ごとで行うクラブ活動のことでございます。本来ですと、スポーツ推進員が各地域にいて、そこでスポーツの普及だったり、指導を行います。しかし、大垣はスポーツに力を入れておりまして、大垣市体育連盟の中に、体育振興会という組織がございます。こちらの方々が、地域の中で、地域住民の皆さまにスポーツイベントを開いたりしております。その活動を活性化するために、2年ごとにクラブ活動をして頂ける地域を決めまして、その地域で、軽スポーツの普及であるとか、ヘルシーウォークなどのイベントを行なって頂くというのがこの事業になります。ちなみに、昨年までは墨俣校区で実施しておりました。
委員	大垣市は、スポーツというブランド力を持った町を作っていくという、1つの大きなテーマを目指しているわけですから、地域スポーツクラブの充実、拡充を図っていけば、結果的にはスポーツの実施率向上に繋がっていくと思います。そこで問題は、スポーツクラブを作って、スポーツの実施率を上げていくということだけではなくて、その環境をどう整備していくかという点だと思います。今後、どういった支援をしていくか、環境整備に取り組みをシフトしていく必要があると思います。
堀 社会教育 スポーツ課長	施設の整備に関しましては、難しい部分もございますので、引き続き研究して参ります。 私は社会教育スポーツ課長として、今年で3年目になりますけれども、

発言者	発言概要
	地域のスポーツ等に参加させて頂いて感じる事が、60歳過ぎの方々は、どの地域でも活発にスポーツを行って頂けているということです。市民アンケートを見ますと、30代から50代の子育て世代であるとか、働いている世代の方々は、やはりスポーツから遠ざかってみえます。そのことに関しましては、体育連盟と話し合いながら、どうすればそういった世代の方々に、スポーツをして頂ける機会を提供できるか検討して参りたいと思います。
委員	私は学校開放委員会というところに所属しておりますけれども、会議に出て思うことが、60代の人というのは、人に接することとか、お世話をすることが非常に優れてる年代だなということです。 子育てが終わって、何かスポーツを始めたい方は、どちらかと言うと、役をやりたくないとか、人の世話はあまりしたくないという傾向があって、その中間の年代の人たちは、スポーツが出来たらいいという考えの人たちが多いと感じます。 数字を見ても分かるとおり、段々と高齢化することによって、同じ人ばかりが体育館を使うので、もっと活性化するためには、多くの方に声かけをすればいいのではないかと思うのですが、ちょっと驚かされた事がありまして、体育振興会という組織がありますけれども、一般の方が、小学校の体育館をスポーツで利用したい時には、どうすれば使えますかと質問をしたことがあります。それでその時に、誰か代表の方が、体育振興会の理事とか、何か1つ役に就いてもらわないと使えません。また、役に就いてもらう時には審査があります、と回答を頂いた時に、そんなことならみんな使わないだろうなと私は感じました。 私も組織にいる人間ですので、そのシステムも分からないことはないです。組織に入って頂いて、例えば、体育館の床を磨く時に参加して頂いたり、何かの時は協力してくださいと当然言いたい立場ですので、その気持ちも分かりますけれども、一方で、体育館を使いたい人が自由に使えるかという、そうではないことに対して、もう少し何かを変えていく必要があるのかなと思いました。 最後に、60代、70代の方が、怪我をしてスポーツが出来なくなると、当然に、40代、50代の方がリーダーシップを執っていくことになります。今後リーダーとなる後継者が、少し見受けられないように感じますので、その育成にも力を入れていくと、もっと活動が活性化して

発言者	発言概要
	いくのではないかと思います。
委員	地区の体育振興会ですけれども、地域によって、すごく特色があるなということを実感しております。何かを進める際にも、とてもスムーズに進められる体育振興会もあれば、ものすごく揉める体育振興会もあります。地区のことなのに、その地区の自治会長との連携がない場合もあります。仕方のないことかもしれませんが、もう少し仕組みに統一性を持たせることが出来ないかなと思います。出来るだけ体育振興会の方の意見を吸い上げて、皆で議論して、その結果を、各地区に下ろそうとしておるわけですが、非常に各地域の温度差があるというのが実情です。

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

③ 第2次文化振興計画

資料No.2に基づき、中井文化振興課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	65 ページの指標 2「芸術文化施設を利用する人の割合」が減っていますが、これは、文化事業だけではなくて、図書館等とすごく近似した内容だと思います。文化施設や図書館は同じような悩みを持っていて、これは全国的にそうなんですけれども、やはり施設を利用する人の割合が、段々減ってきているのが全国的な傾向だと思います。現在、こういった施設が、どういう方向に進まなければいけないかというところ、図書館も同じですけれども、先ほども意見がありましたが、やはり、本を探したい人、展示を見たい人、何かを知りたい人が来るという場所だけではなくて、人々が交流する場所にしていくという方向だと思います。そのように取り組んでいるところは、まだ日本では少ないですが、例えば半田市の博物館だと、半田祭りと地域と施設が連携した事業を行っていて、参考にできると思います。大垣祭りはユネスコ文化遺産に登録されましたけれども、大垣市も大垣祭りを支援する地域の力がすごく強いので、市がそこまで連携に注力する必要はないのかもしれませんが、半田市のように、施設と地域と何かを連携させることで、その施設の存在意義を知らしめるような仕掛けを、市の方から働きかけて行くと良いと思います。また、学校教育とも連携させて、色々なものが連携していくと、文化施設ももっと活性化すると思います。指標だけを見ていると、やはり施設と何かの連携といった視点が抜けている気がするので、もっと総合的に考えていけると良いと思います。
中井 文化振興課長	地域と施設の関係につきましては、我々もそこを重視したいと思っております。とりわけ市民アンケートにもありますように、高齢者の方々が、スイトピアセンターへなかなか行くことが出来ないという声もある中で、各地域にある施設を有効に使っていくというのが、これからの1つの流れだと思います。そういう意味では、その地域の様々な文化遺産や無形文化遺産と、人とを介在させながら、積極的に施設が利用されていくというのが、これから望まれるべき形だと思いますので、参考にさせていただきます。

発言者	発言概要
委員	県外や他市町村からの、大垣市内の芸術文化に対する来館者数は把握されていますか。
中井 文化振興課長	手元に正確な情報を持ち合わせておりませんが、文化会館等で行う事業につきましては、やはり市展ですとか、市内の人を対象にするような催し物につきましては、圧倒的に市内の方の利用者が多いのが事実です。ジュニア油絵展等の分野に限っては、むしろ市外の油絵教室に通っている方々からご応募頂いていることもあり、市外、県外の方の利用者が多いです。やはり、施設で行う催し物によって、市内、市外の利用者の分布に差があるという印象を持っております。
委員	芸術に関する色々なイベント等がありますので、是非、市外や県外の方々にも大垣に来ていただいて、活性化につながれると良いかなと思いました。
委員	施設を利用する割合の低下については、たしかに施設が多機能化していくことが必要だと思いますが、それからもう1つ、世代を超えた繋がりも、非常に大事になってくると思います。一方で、多機能化していくことも大事ですが、やはり、その施設が持つ本来の目的も忘れてはいけないと思います。先ほども言いましたが、1冊の重みが感じられる質の高い蔵書を揃えるとか、芸術で言えば、芸術性の高いものを揃えるという本来の役割は絶対に外せないので、多機能だけを求め過ぎると、本来の目的が疎かになりかねないので、市民のニーズをどう拾い上げていくかが大事だと思います。それで、指標としては数値の形で結果が出ていますが、実際には、どのようなプロセスで市民のニーズを吸い上げて、それをどのように事業に反映させていますか。
中井 文化振興課長	文化事業団では、1つのホール事業や、1つの展覧会が終わる度にアンケートを実施しておりまして、アンケート結果から、利用者のニーズを拾い、改善を少しずつ進めているところでございます。それ以外のジャンルにつきましては、まだ十分にニーズを拾えていないと思いますので、今後の検討課題とさせていただきます。
委員	どうしても文化に関わると堅いとか、真面目というイメージになってしまう気がします。私は子どもと関わっていますが、教養を高めたり、感性を磨くには、文化と触れ合うことがとても良いと思っています。時代も令和になり、仕掛けの部分で、もっと日本人の魂に響くような何かを、もう少し工夫出来ると、人々の関心度も高まったりする気が

発言者	発言概要
	します。県外のお寺やお宮にお参りに行くのではなく、もっと身近に、多くの歴史があるということを、大垣の人に分かってもらいたいと自分でも思っておりますので、是非、アピールの方法を工夫して、皆さんの関心度が高まるような取り組みをしていただきたいと思います。

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

- (2) その他
意見なし。

閉会